

2011年8月 松居和寛様・金田真由子様（オムロンヘルスケア株式会社）、臼井弘様（オムロンコーリン株式会社）

内容：①会議 ②緩和ケアカンファレンス参加 ③現場同行

■松居和寛

同行見学をさせていただいて感じたことを述べさせていただきます。

- ・ カルテ記入のシステムは完成されているように感じました。業務プロセスの効率化を図るためのシステムないしハードの開発を行う場面が生じた際には、貴院のシステムが大変参考になります。
- ・ 現場を見て、薬剤の管理が目分量で行われていた点が少々気になりました。薬剤の残量管理などを、ピルケースの中身を確認して少ないようだから追加するといったプロセスで処方箋を出していらっしやっただので、薬剤の残量管理などがもっと手軽に、定量的に行えるシステムの需要があるのではないかと感じました。
- ・ 患者様の家庭環境はさまざまで、在宅医療向けの商品を開発する場合は、病院で考える以上にさまざまなケースを想定して開発を行う必要があると感じました。

このたびの同行は、今後の開発にとって非常に有意義なものであるといえます。開発職の私は普段社内でのデスクワークが多いので、このような機会は本当にありがたいです。重ね重ね感謝申し上げます。

■金田真由子

今回、現場を訪問させていただき、また緩和ケアカンファレンスにも参加させていただきました。その中で学んだ事、感じた事は以下です。

- ・ 非常に印象に残ったことは、在宅で死を迎えるということのシビアさでした。在宅医療の現場で、どんな方が、どんな家族に介護されて、どんな風に過ごし、ドクターやナースがどのようにサポートしているのか、想像のつかない世界でしたが、思った以上にシビアな世界であることを学ばせていただきました。
- ・ 緩和ケアカンファレンスでは、「痛みケア」だけではなく「メンタルケア」が非常に大きいこと、また従来の大学病院や医療の考え方と在宅医療が非常に違う、ということを学び、今後の在宅医療の課題であると感じました。
- ・ 在宅医療従事者は24h対応であることを迫られている中で、在宅での患者さんのバイ

タルをどこでどう見るのか、という所では弊社でまだまだ貢献できるスペースがあるように感じました。

- ・ 最後に、まだまだ工夫の余地が多い在宅医療という現場で、貴クリニックが真摯に患者さんのことや、業務効率を考えて取り組まれている姿勢に感銘も受けました。

現場の患者さんのことだけではなく、貴クリニックの考え方や在宅医療の全体像を知ることができ、非常に有意義でした。多くのお時間を割いていただいたことを感謝するばかりです。ありがとうございました。

■ 臼井弘

- ・ 緩和ケアカンファレンスの中で、病院から退院し、在宅専門医へ紹介される患者さんの事情を垣間見ることが出来き、大変参考になりました。
患者さん本人の、家族の理解度、または病院からの治療に関しての説明度。患者さんを取り巻く前提条件を理解した上で、最善の治療計画（ケア計画）を策定する。メンタルケアが2/3 だよとご説明頂いた理由がよく判りました。
- ・ 現場同行の中で感じたのは、効率化です。医師、看護師、ドライバー、ディクテーション、医療事務、薬剤師が、各々の業務に集中できる環境で、パフォーマンスを発揮できるしくみを創り上げているところ。
具体的には、医師の音声録音によるカルテ作成のしくみ。事前に処方箋を持参することで、写メール FAX による、調合指示・ドラックデリバリ。採血・点滴、医療具ごとではなく、処置ごとに One パッケージ・ポーション化された、往診鞆。
- ・ 今後、高齢化が進み、病床数の削減が進むと、在宅医療の需要が増えます。本人が希望されて退院するケースは本当に減るかも知れません。そのため、今後の在宅医療には、メンタルケアと業務効率の両立が、より求められているのだと考えさせられました。

このような、勉強の場を用意して頂き、本当に感謝しております。我々メーカーとしてできる、医療への貢献を本気で考え、業務効率のお役に立てるものを 1 つでも多くお届けしたいと考えます。本当に有難う御座いました。